

若年層におけるデートDVに関する意識調査

報告書

(大学・短期大学・専修学校)

令和6年3月

広島県健康福祉局こども家庭課



目 次

I	調査の概要	3
1	調査目的	3
2	調査項目及び調査対象	3
3	調査時期	3
4	調査方法	3
5	調査実施委託機関	3
6	回収結果	3
II	調査結果の概要	4
1	デートDVについての認知	4
2	交際相手からの行為についての暴力としての認識	6
3	男女の役割に対する意識	12
4	デートDVについての予防教育の実施状況	16
5	予防教育の実施状況ごとのデートDVについての認知	17
6	デートDVの予防に関して実施している取組	19
7	デートDV予防教育を行うために必要な支援	20
8	デートDV予防教育を受ける時期	21
III	調査票	22
	デートDVについての意識調査	22
	デートDV予防教育に関する調査	24

I 調査の概要

1 調査目的

若年層におけるデートDVに関する意識、学校でのデートDVについての予防教育の実施状況などを把握し、今後のDV対策の推進のための基礎資料とする。

2 調査項目及び調査対象

調査項目	調査対象
(1) デートDVについての認知	県内の大学生・短期大学生・専修学校生
(2) 交際相手からの行為についての暴力としての認知	
(3) 男女の役割に対する意識	
(4) デートDV予防教育の実施状況別認知度	各学校の担当教諭

3 調査時期

令和5年12月（平成28年11月、平成29年11月、平成30年11月、令和元年11月、令和2年12月、令和3年12月、令和4年12月の調査に続いて8回目）

4 調査方法

WEB調査法（県内の大学33校、短期大学2校、専修学校68校にQRコード入りのポスターを配布し、学生へ本調査の周知を依頼した。）

5 調査実施委託機関

一般社団法人広島テレワーク協会

6 回収結果

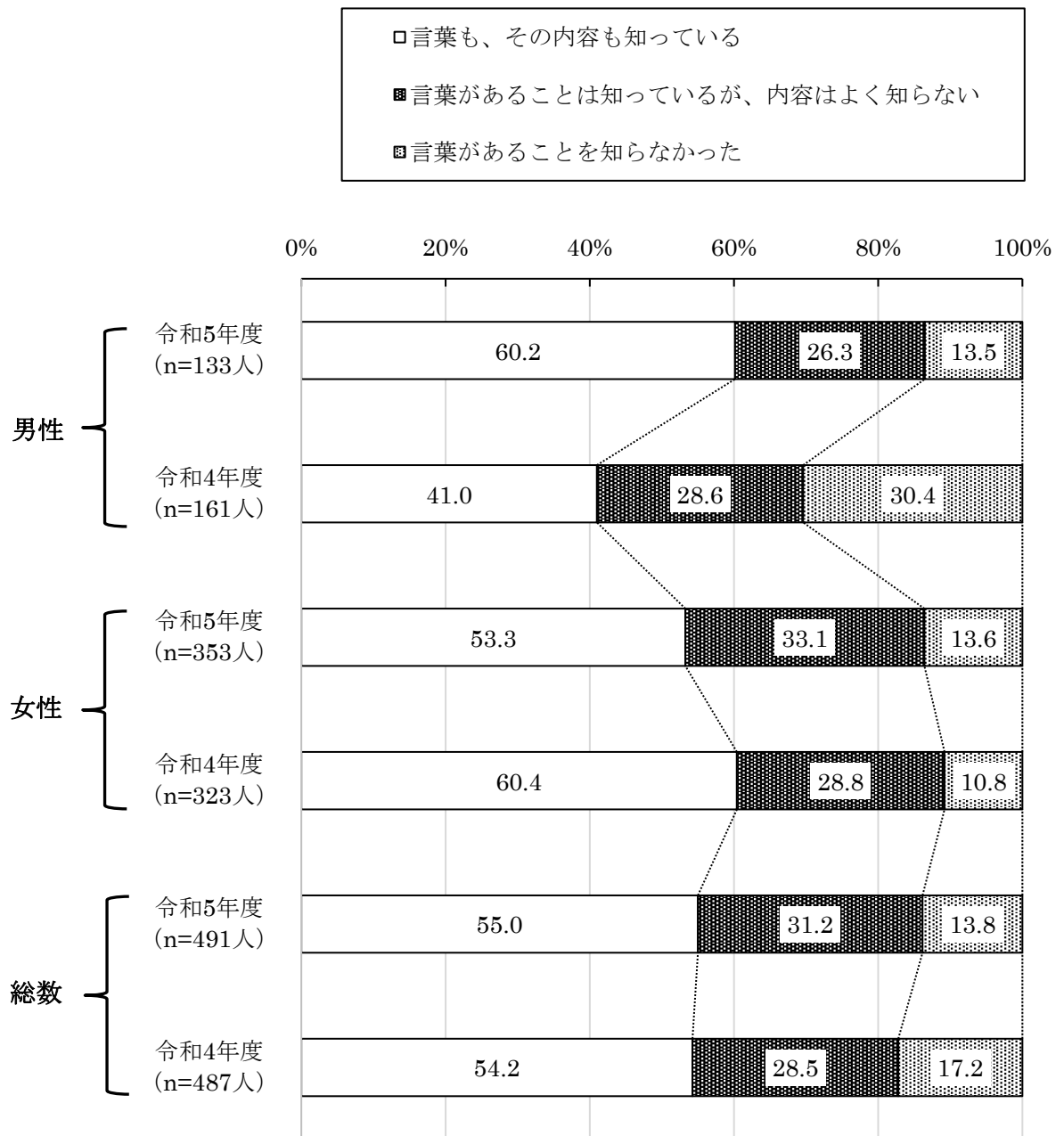
総数：491人		
男性	女性	不明
133人	353人	5人
27.1%	71.9%	1.0%

II 調査結果の概要

1 デートDVについての認知

問3 あなたは、「デートDV」（交際相手からの暴力）について、知っていますか。

図1-1 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度



「デートDV」について知っているか聞いたところ、「言葉も、その内容も知っている」という人は55.0%である。

一方、「言葉があることを知らなかった」という人は13.8%で、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(31.2%)と合わせると45.0%であり、約5割の人に十分な認知がされていない。

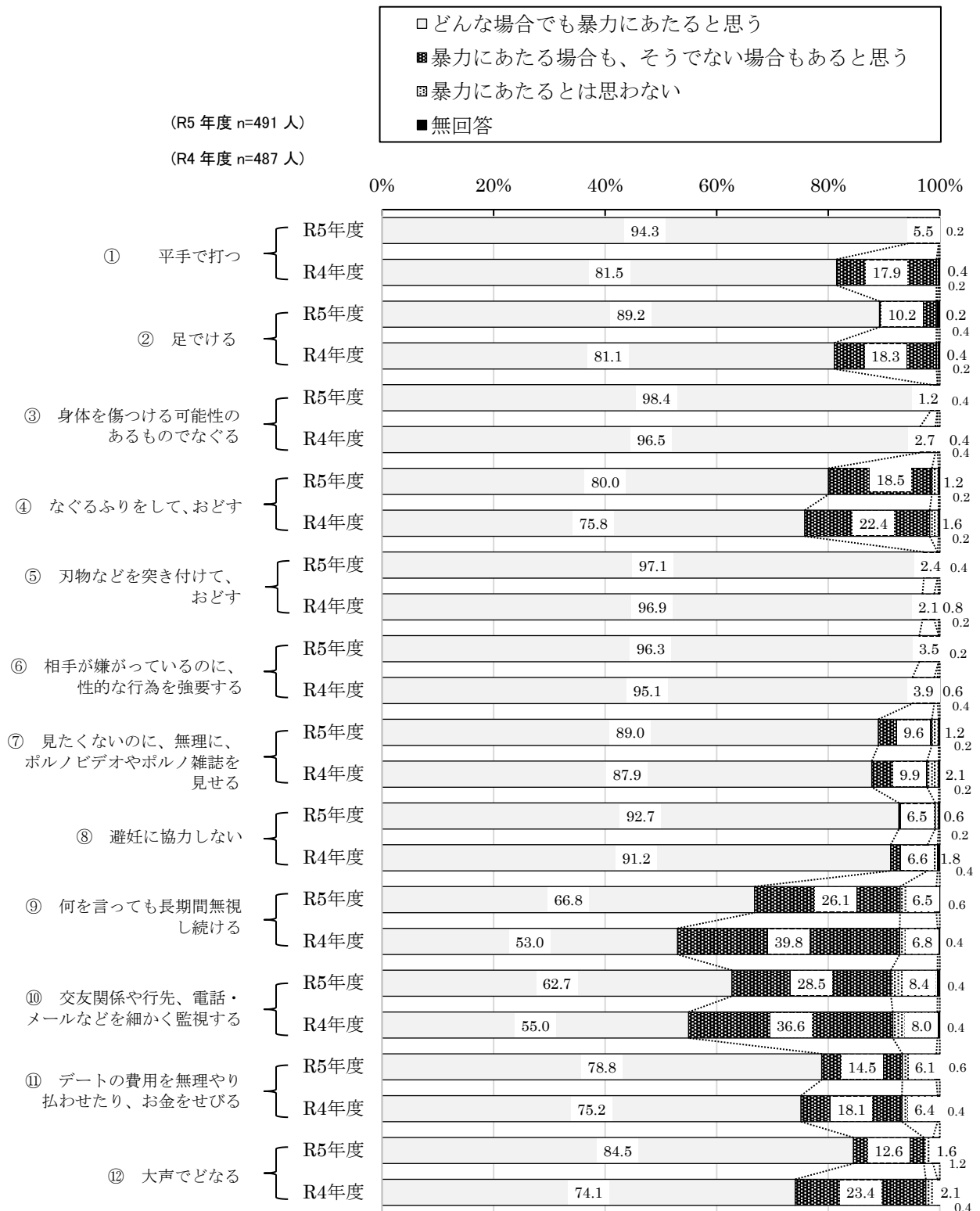
男女別にみると、男性では、「言葉も、その内容も知っている」という人は60.2%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(26.3%)、「言葉があることを知らなかった」(13.5%)である。女性では、「言葉も、その内容も知っている」という人は53.3%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(33.1%)、「言葉があることを知らなかった」(13.6%)となっている。

前回調査(令和4年度)と比較すると、「言葉も、その内容も知っている」は前回調査54.2%であったのに対し、今回調査は55.0%で0.8ポイント増加している。「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」は前回調査28.5%であったのに対し、今回調査は31.2%で2.7ポイント増加している。「言葉があることを知らなかった」という人は前回調査17.2%であったのに対し、今回調査は13.8%で3.4ポイント減少している。男女別にみると、男性では、「言葉も、その内容も知っている」は前回調査41.0%であったのに対し、今回調査は60.2%で19.2ポイント増加している。女性では、「言葉も、その内容も知っている」は前回調査60.4%であったのに対し、今回調査は53.3%で7.1ポイント減少している。(図1-1)

2 交際相手からの行為についての暴力としての認識

問4 あなたは、交際相手の次のような態度や行動について、暴力だと思いますか。それぞれ、あなたの考えに最も近いものの番号を1つずつ選んで、○を付けてください。

図2-1 交際相手からの行為について暴力としての認識



12 項目の行為をあげて、それが交際相手から行われた場合に『暴力にあたると思うか』の意識を聞いた。

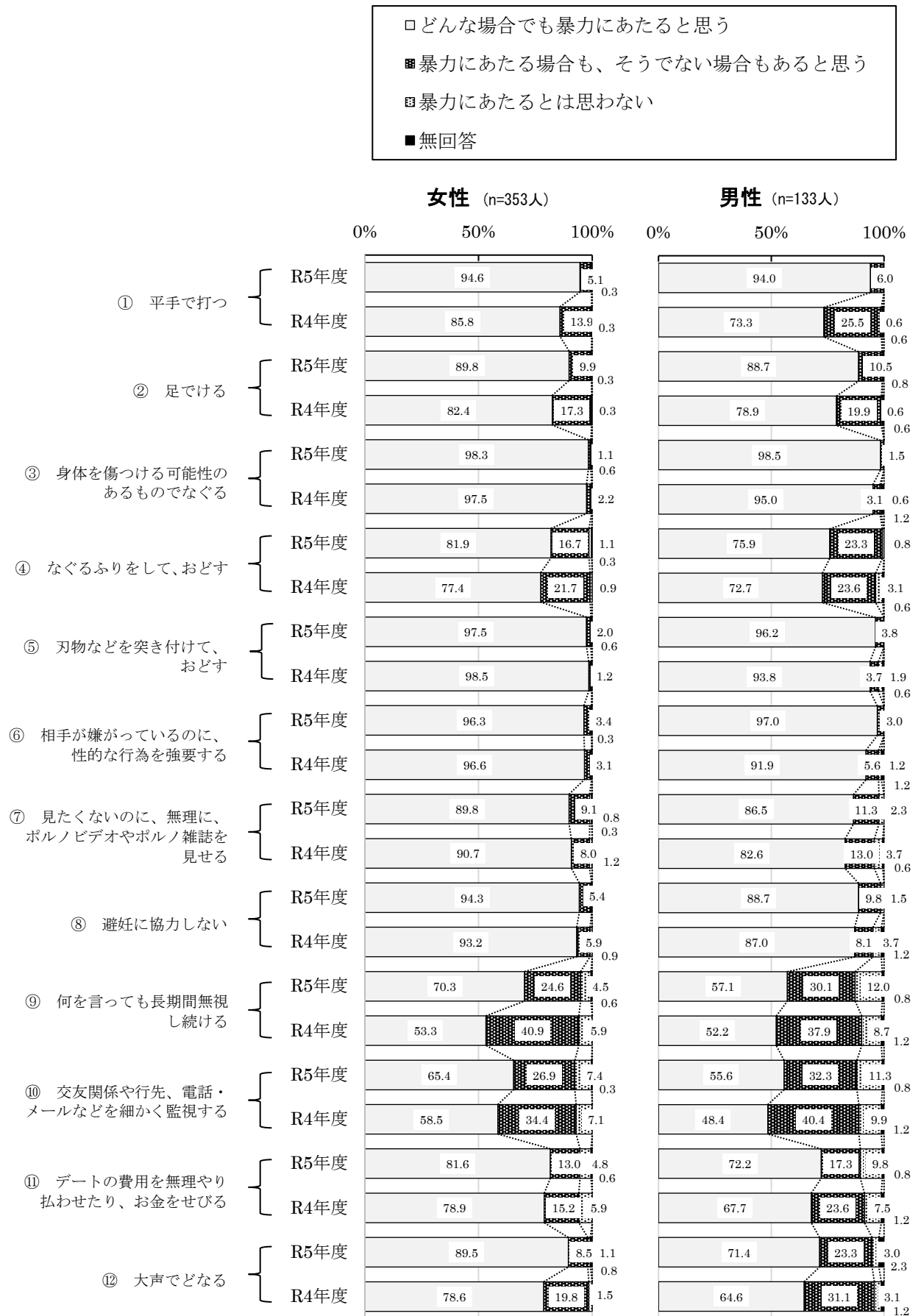
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多いのは、「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」(98.4%)、「刃物などを突き付けて、おどす」(97.1%)、「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」(96.3%)、「平手で打つ」(94.3%)、「避妊に協力しない」(92.7%)で、9割以上の人々が『暴力にあたる』と認識している。

また、「足でける」(89.2%)、「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(89.0%)、「大声でどなる」(84.5%)、「なぐるふりをして、おどす」(80.0%)は、8割以上の人々が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えている。

一方、「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」(62.7%)、「何を言っても長期間無視し続ける」(66.8%)は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が7割を下回っている。

前回調査と比較すると、12 項目中全項目で認知度が高くなっている。(図 2-1)

図2-2 交際相手からの行為についての暴力としての認識 [男女別]



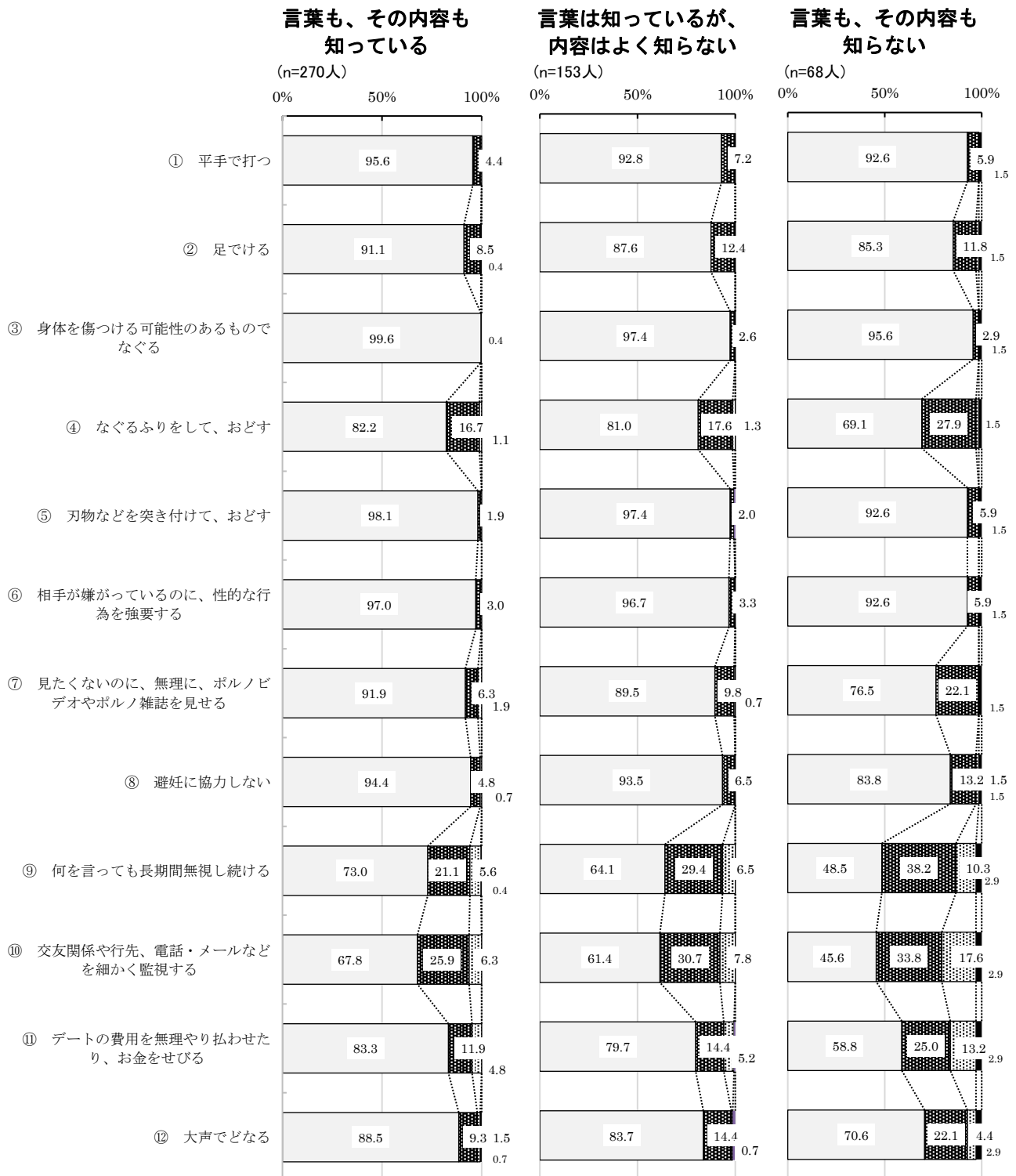
男女別にみると、『暴力にあたる』と認識する行為と、『暴力にあたらない』と認識する行為に大きな差はみられないが、12項目中の10項目（「平手で打つ」「足でける」「なぐるふりをして、おどす」「刃物などを突き付けて、おどす」「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「避妊に協力しない」「何を言っても長期間無視し続ける」「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」「大声でどなる」）で女性のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた人の割合が高くなっている。12項目中の2項目（「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」）では男性のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた人の割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、女性は、12項目中9項目（「平手で打つ」「足でける」「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」「なぐるふりをして、おどす」「避妊に協力しない」「何を言っても長期間無視し続ける」「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」「大声でどなる」）で前回調査と比べて、認知度が高くなっている。

男性は、12項目中全項目で前回調査と比べて、認知度が高くなっている。（図2-2）

図 2-3 交際相手からの行為についての暴力としての認識
 「デートDV」(交際相手からの暴力)の認知度別

□ どんな場合でも暴力にあたると思う
 ■ 暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
 ▨ 暴力にあたるとは思わない
 ■ 無回答

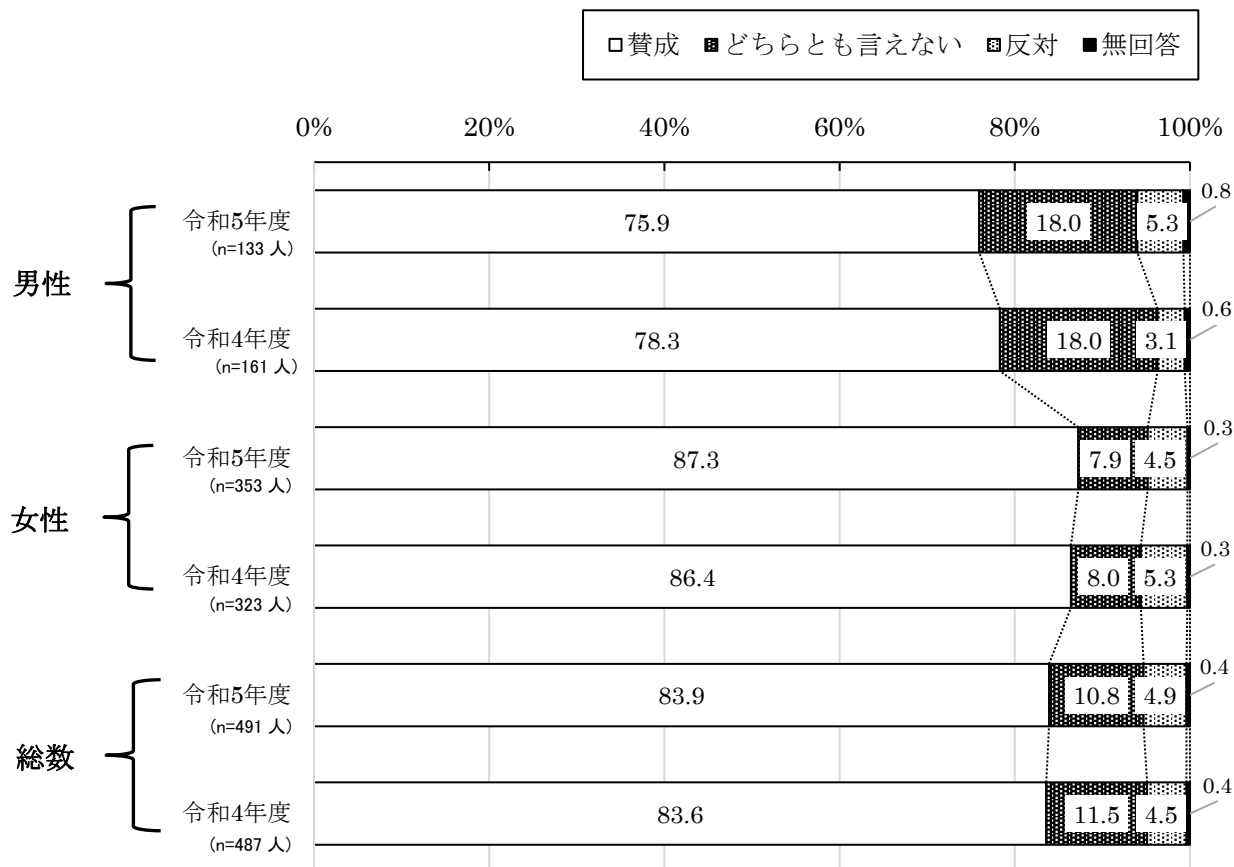


交際相手からの行為についての暴力としての認識を、問3「デートDV」（交際相手からの暴力）についての認知度別にみると、「言葉も、その内容も知っている」人は、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」人、「言葉も、その内容も知らない」人に比べ、12項目中全項目で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。

3 男女の役割に対する意識

問5 あなたは、「例えば、『夫は外で働き妻は家庭を守るべきである』というような男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について、どう思いますか。

図3-1 男女の役割に対する意識



「男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方についてどう思うか聞いたところ、総数では 83.9%が「賛成」と答えた。「どちらともいえない」が 10.8%、「反対」が 4.9%であった。

男女別にみると、男性は「賛成」(75.9%)、「どちらでもない」(18.0%)、「反対」(5.3%)であった。女性は、「賛成」(87.3%)、「どちらでもない」(7.9%)、「反対」(4.5%)であった。

女性のほうが「賛成」と答えた人の割合が 11.4 ポイント高くなっている。

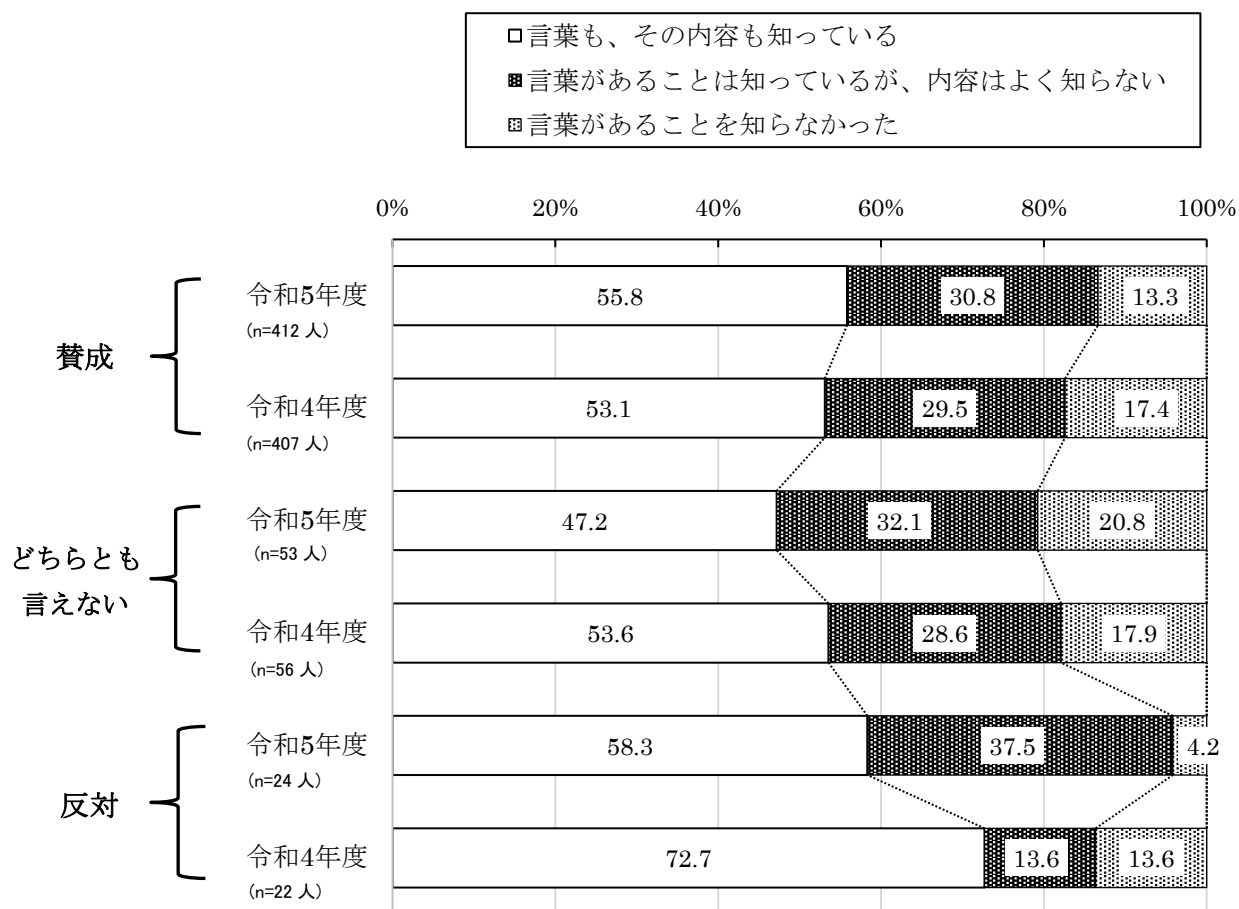
前回調査と比較すると、「賛成」は前回調査 83.6%であったのに対し、今回調査は 83.9%で 0.3 ポイント増加している。

男性では、「賛成」が、前回調査 78.3%から今回調査 75.9%と 2.4 ポイント減少している。

女性では、「賛成」が、前回調査 86.4%から今回調査 87.3%と 0.9 ポイント増加している。

(図3-1)

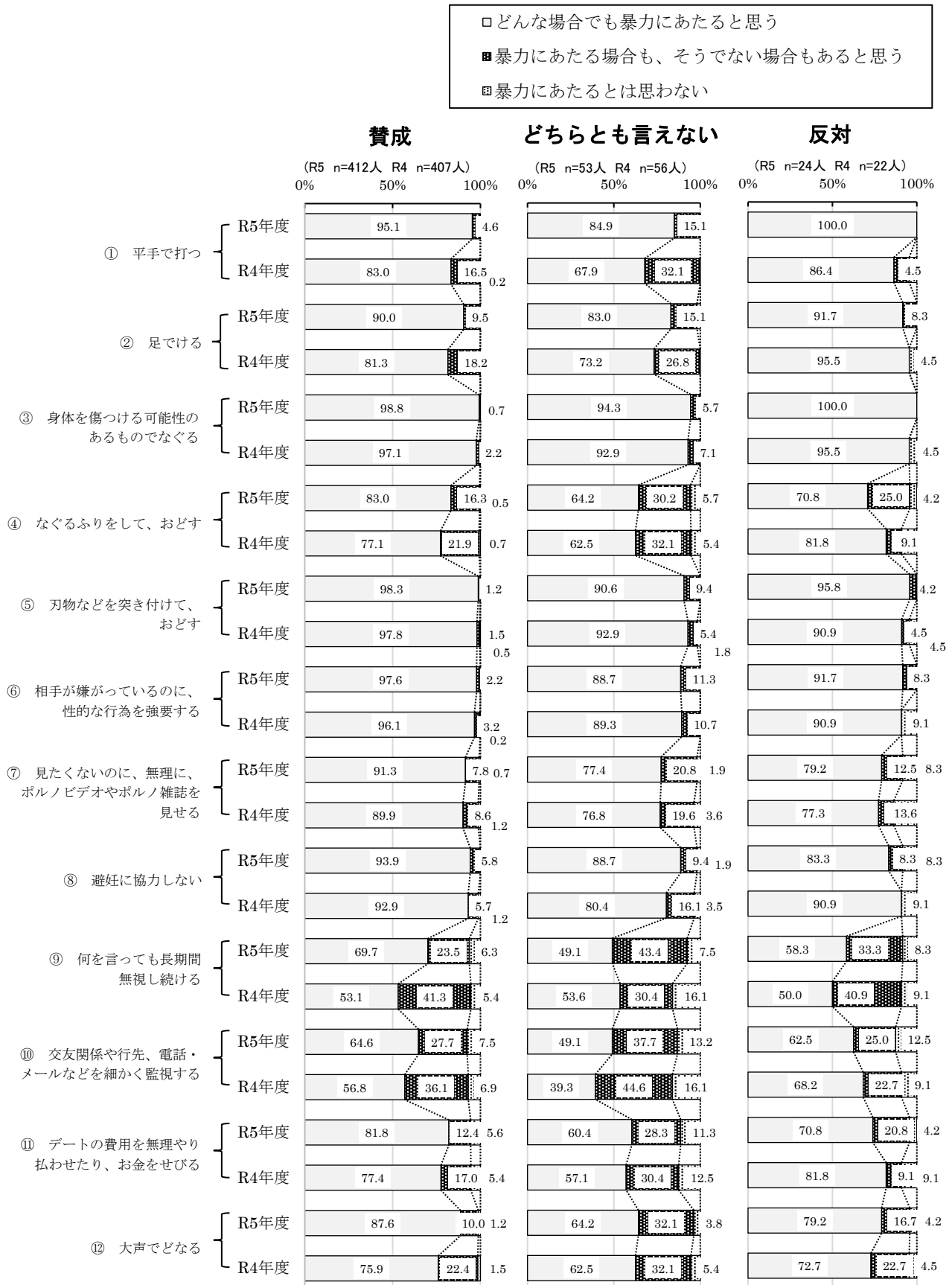
図3-2 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度
[男女の役割に対する意識別]



男女の役割に対する意識別にデートDVの認知度を比較した。「男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について「賛成」と答えた人は、55.8%が「言葉も、その内容も知っている」、30.8%が「言葉は知っているが、内容はよく知らない」、13.3%が「言葉も、その内容も知らない」と答えた。男女の役割に対する意識に「どちらとも言えない」と答えた人は、47.2%が「言葉も、その内容も知っている」、32.1%が「言葉は知っているが、内容はよく知らない」、20.8%が「言葉も、その内容も知らない」と答えた。男女の役割に対する意識で「反対」と答えた人は、58.3%が「言葉も、その内容も知っている」、37.5%が「言葉は知っているが、内容はよく知らない」、4.2%が「言葉も、その内容も知らない」と答えた。

前回調査と比較すると、「どちらとも言えない」「反対」の人において、「言葉も、その内容も知っている」人の割合が減少している。(図3-2)

図3-3 交際相手からの行為についての暴力としての認識
[男女の役割に対する意識別]



男女の役割に対する意識別に、交際相手からの行為についての暴力としての認識をみると、「男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について「賛成」と答えた人は、「なぐるふりをして、おどす」「刃物などを突き付けて、おどす」「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「避妊に協力しない」「何を言っても長期間無視し続ける」「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」「大声でどなる」行為について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。

「反対」と答えた人は、「平手で打つ」「足でける」「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」行為について、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「賛成」と答えた人は、12項目中全項目で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が増加している。

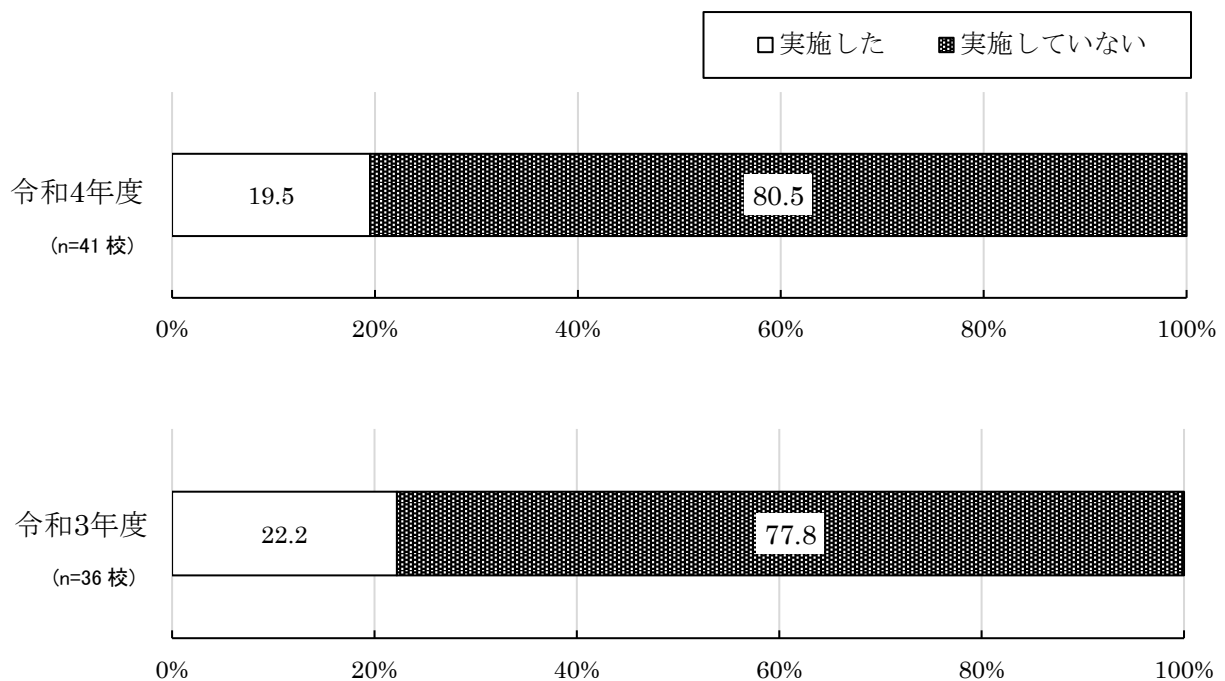
「どちらとも言えない」と答えた人は、12項目中9項目（「平手で打つ」「足でける」「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」「なぐるふりをして、おどす」「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「避妊に協力しない」「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」「大声でどなる」）で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が増加している。

「反対」と答えた人は、12項目中7項目（「平手で打つ」「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」「刃物などを突き付けて、おどす」「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「何を言っても長期間無視し続ける」「大声でどなる」）で、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が増加している。（図3-3）

4 デートDVについての予防教育の実施状況

問1 デートDVの予防に関する授業・研修・講演会等（非行防止教室等の生徒指導に関する講演会、命の大切さや良好な人間関係などに関する講演会等、デートDVが直接的なテーマではなかった場合を含む。）を実施したことがありますか。

図4-1 デートDVについての予防教育の実施状況



デートDVの予防に関する授業・研修・講演会等を実施したことがあるかどうか聞いたところ、令和4年度は「実施した」(19.5%)、「実施していない」(80.5%)であった。

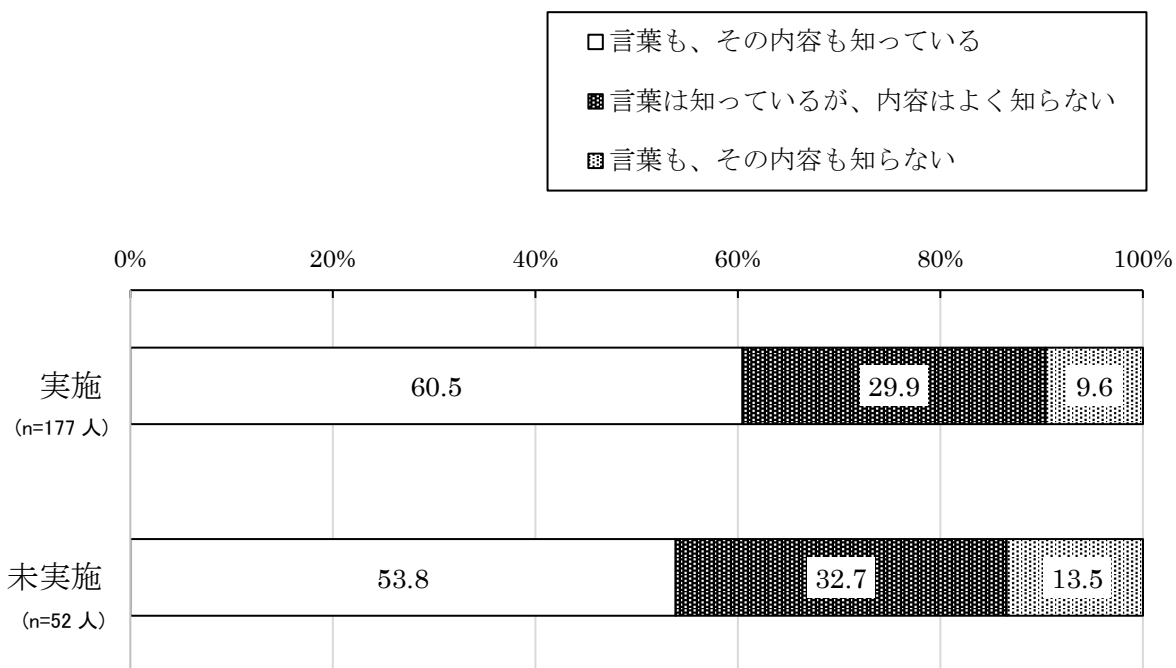
前回調査と比較すると、「実施した」は前回調査22.2%であったのに対し、今回調査は19.5%で2.7ポイント減少している。

約8割の学校で予防教育が行われていない。(図4-1)

5 予防教育の実施状況ごとのデートDVについての認知

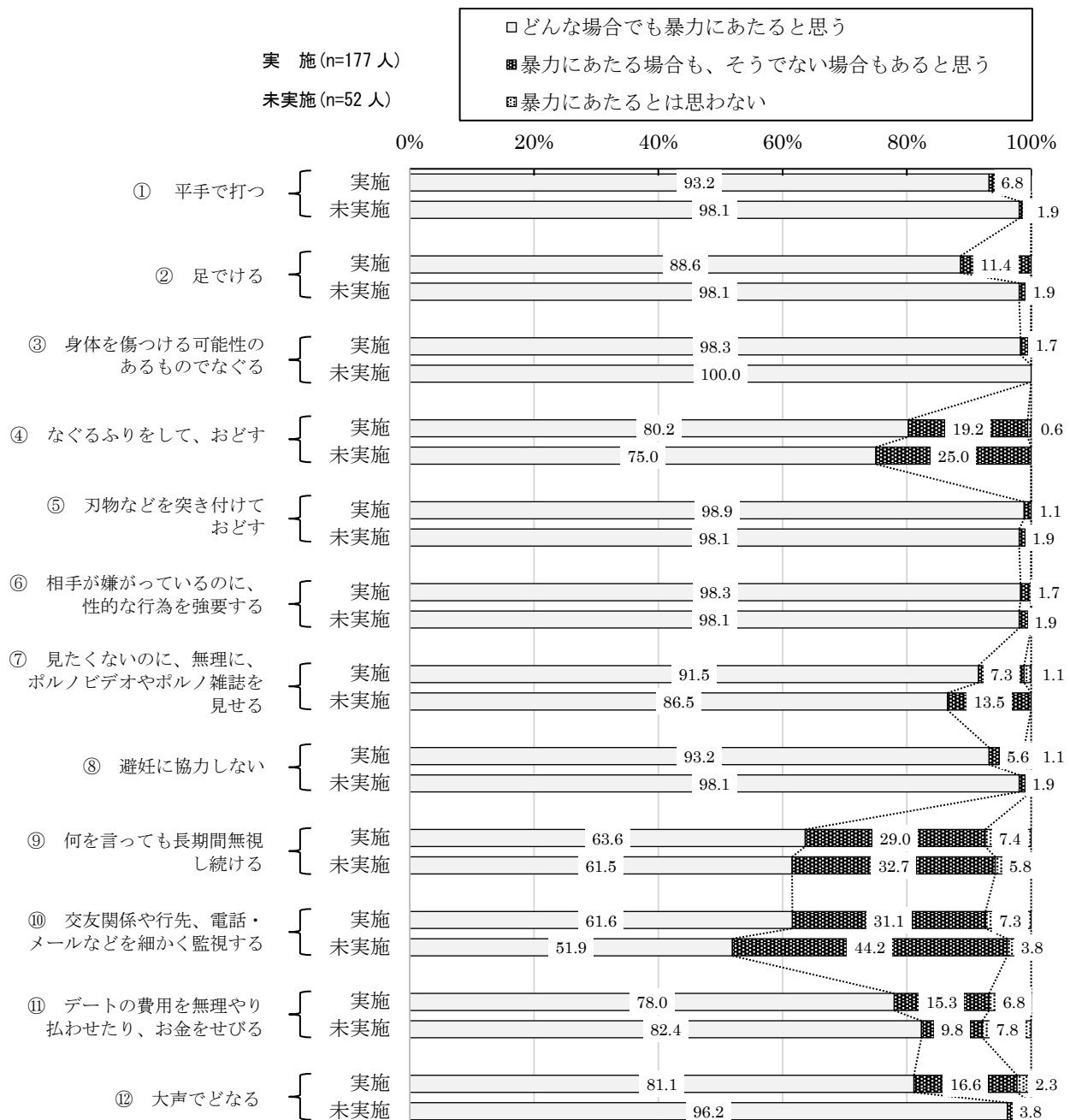
※令和4年度及び令和5年度において、1度はデートDVについての予防教育を行った学校の生徒を「実施」グループ、令和4年度及び令和5年度において、デートDVについての予防教育を行っていない学校の生徒を「未実施」グループとする。

図 5-1 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度
[デートDV予防教育実施状況別]



デートDVについての予防教育の実施状況別の認知度を比較すると、「言葉も、その内容も知っている」と答えたのは、予防教育を実施した学校では60.5%、未実施校では53.8%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」と答えたのは、実施校では29.9%、未実施校では32.7%であった。「言葉があることを知らなかった」と答えたのは、実施校では9.6%、未実施校では13.5%であった。予防教育を実施した学校の学生の方が認知度が高くなっている。
(図5-1)

図5-2 交際相手からの行為について暴力としての認識
 [デートDV予防教育実施状況別]

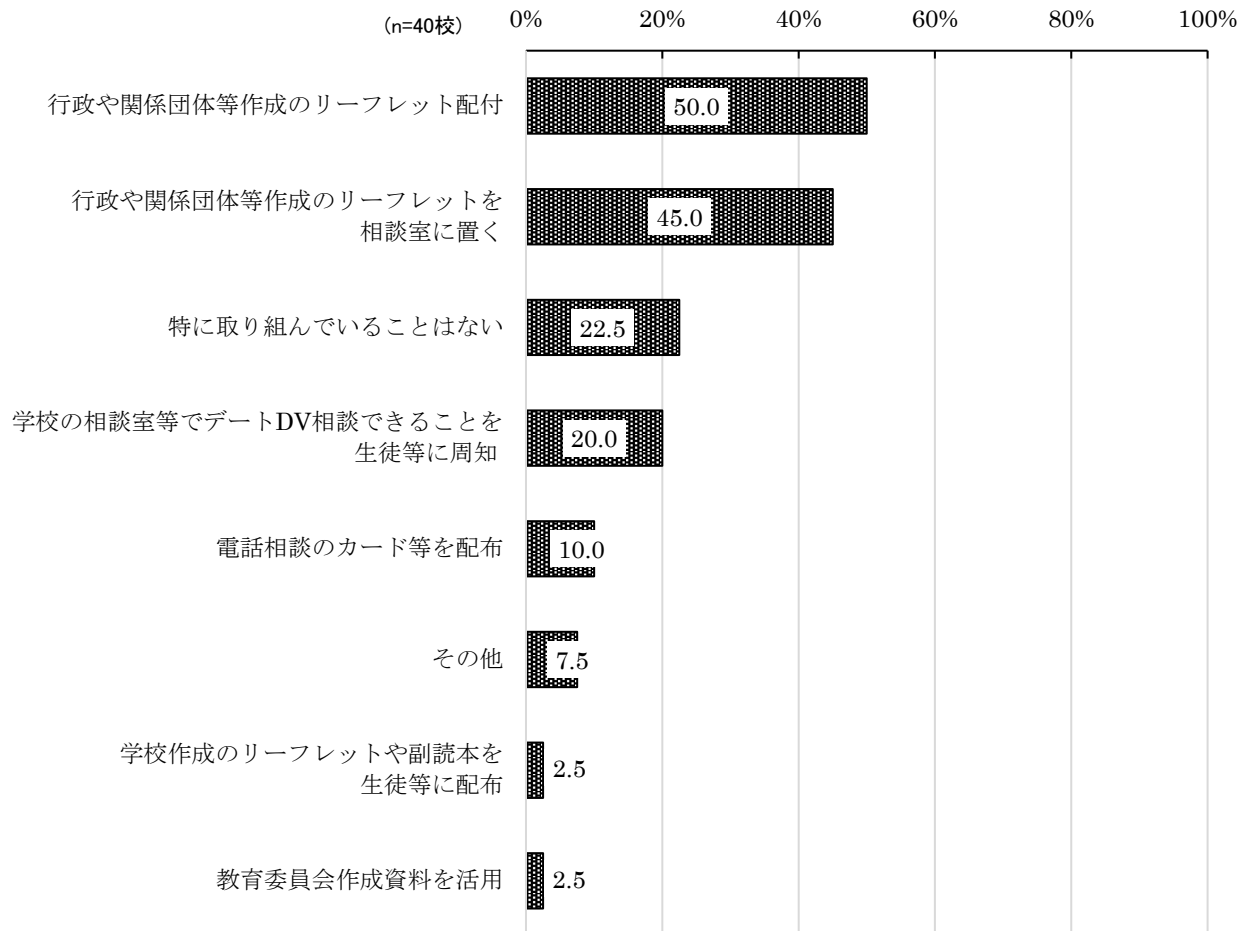


デートDVについての予防教育の実施状況別に、交際相手からの行為についての暴力としての認識を見てみると、12項目中6項目（「なぐるふりをして、おどす」「刃物などを突き付けて、おどす」「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「何を言っても長期間無視し続ける」「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」）の行為において、予防教育を実施した生徒のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。12項目中6項目（「平手で打つ」「足でける」「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」「避妊に協力しない」「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」「大声でどなる」）では、予防教育を未実施の生徒のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。（図5-2）

6 デートDVの予防に関して実施している取組

問2 授業や講演以外に、デートDVの予防に関して実施している取組はありますか。
あてはまる番号すべてに○を付けてください。

図6 デートDVの予防に関して実施している取組はありますか

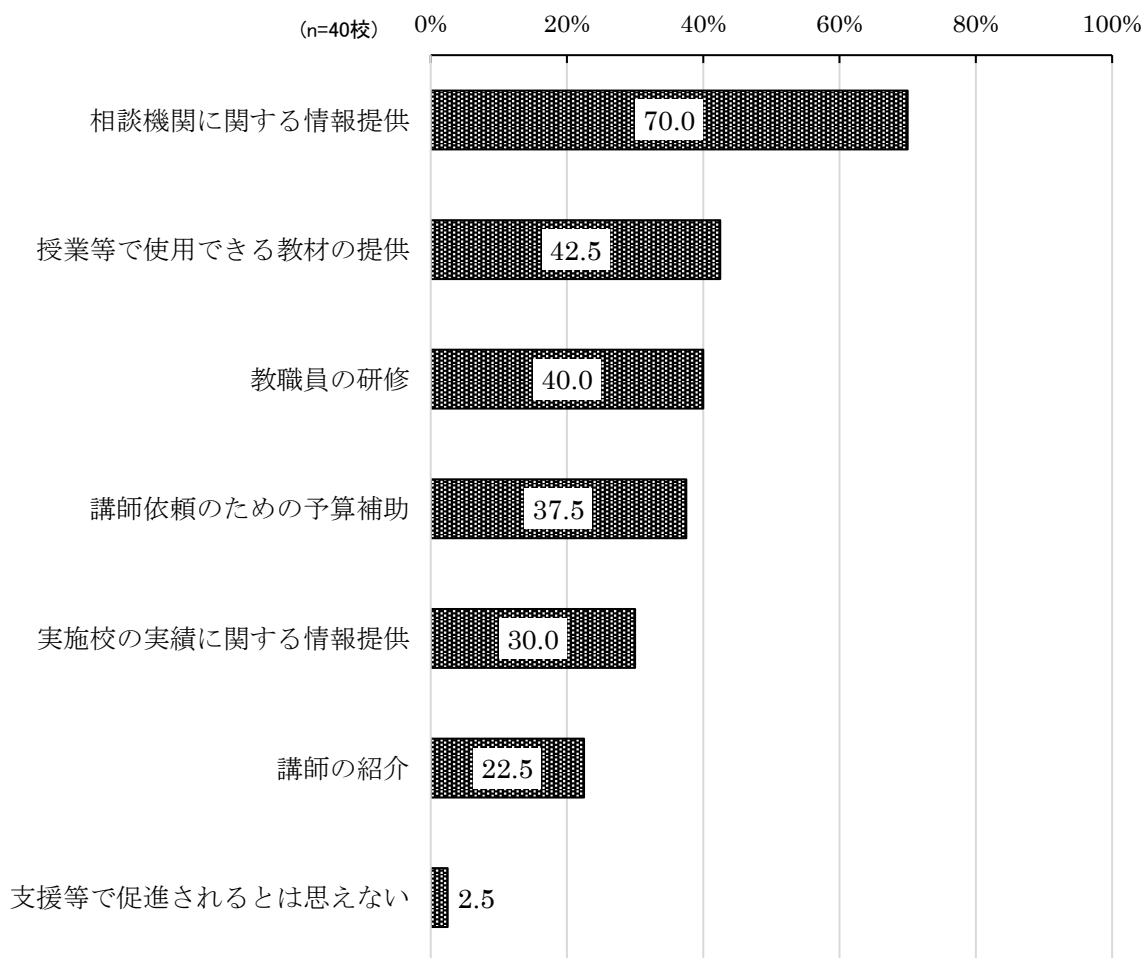


デートDVの予防に関して実施している取組について聞いたところ、最も多いのは「行政や関係団体等作成のリーフレット配付」(50.0%)、次いで「行政や関係団体等作成のリーフレットを相談室に置く」(45.0%)、「特に取り組んでいることはない」(22.5%)、「学校の相談室等でデートDV相談できることを生徒等に周知」(20.0%)、「電話相談のカード等を配布」(10.0%)、「その他」(7.5%)、「学校作成のリーフレットや副読本を生徒等に配布」「教育委員会作成資料を活用」(2.5%)となっている。(図6)

7 デートDV予防教育を行うために必要な支援

問3 デートDV予防教育を行うために必要な支援は何だと思えますか。あてはまる番号3つに○を付けてください。

図7 デートDV予防教育を行うために必要な支援

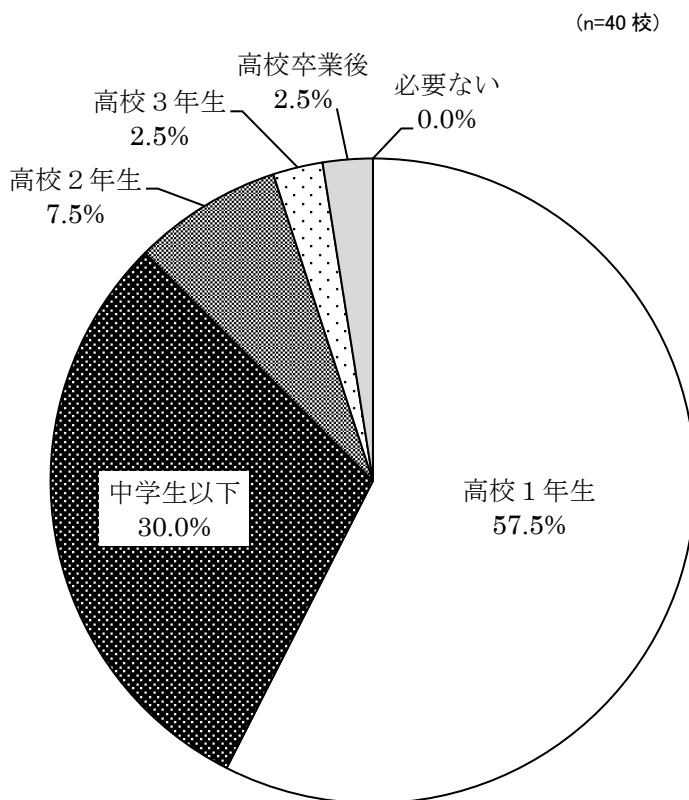


デートDV予防教育を行うために必要な支援は何だと思うか聞いたところ、「相談機関に関する情報提供」が70.0%と最も高く、「授業等で使用できる教材の提供」(42.5%)、「教職員の研修」(40.0%)、「講師依頼のための予算補助」(37.5%)、「実施校の実績に関する情報提供」(30.0%)、「講師の紹介」(22.5%)と続いた。「支援等で促進されるとは思えない」と回答した学校は2.5%であった。(図7)

8 デートDV予防教育を受ける時期

問4 デートDVの予防教育を受けるのは、いつ頃が良いと思いますか。もっとも適していると思う時期に○を付けてください。

図8 デートDV予防教育を受ける時期



デートDVの予防教育を受けるのは、いつ頃が良いと思うか聞いたところ、「高校1年生」と答えた学校が57.5%で最も多かった。「中学生以下」(30.0%)、「高校2年生」(7.5%)、「高校3年生」「高校卒業後」(2.5%)と続いた。「中学生以下」「高校1年生」を合わせると87.5%で、早い時期から予防教育を受けた方が良いと考える学校が8割を超えている。(図8)

Ⅲ 調査票

デートDV（交際相手からの暴力）についての意識調査

皆さんの回答は、今後の広島県の施策に活かされます。
3分程度で終わる、簡単なアンケートです。ぜひご協力ください。
(アンケート調査は匿名です。回答内容により、個人が特定されることはありません。)

問1 あなたの性別は

※答えることが難しい場合は、回答不要です。

1 男性	2 女性
------	------

問2 あなたの所属は

1 高等学校・高専 (特別支援学校高等部)	2 大学 専修学校
--------------------------	--------------

問3 あなたは、「デートDV」（交際相手からの暴力）について、知っていますか。

1 言葉も、その内容も知っている
2 言葉があることは知っているが、内容はよく知らない
3 言葉があることを知らなかった

問4 あなたは、交際相手の次のような態度や行動について、暴力だと思いますか。

それぞれ、あなたの考えに最も近いものの番号を1つずつ選んで、○をつけてください。

	暴力にあたる	暴力にあたる場合も、そうでない場合もある	暴力にはあたらない
①平手で打つ	1	2	3
②足でける	1	2	3
③身体を傷つける可能性のあるものでなぐる	1	2	3
④なぐるふりをして、おどす	1	2	3
⑤刃物などを突き付けて、おどす	1	2	3
⑥相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する	1	2	3
⑦見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
⑧避妊に協力しない	1	2	3
⑨何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3
⑩交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3
⑪デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる	1	2	3
⑫大声でどなる	1	2	3

問5 あなたは、「例えば、『夫は外で働き妻は家庭を守るべきである』というような男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について、どう思いますか。

1 賛成	2 どちらとも言えない	3 反対
------	-------------	------

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

デートDV 予防教育に関する調査

学校・大学向け

学校・大学名	
記入者職・氏名	
電話	

(学校内で回答をとりまとめ、各校1回答としてください)

問1 デートDVの予防に関する授業・研修・講演会等(非行防止教室等の生徒指導に関する講演会、命の大切さや良好な人間関係などに関する講演会等、デートDVが直接的なテーマではなかった場合を含む。)を実施したことがありますか。

なお、(2)、(3)については、高等学校のみお答えください。

(1) 令和4年度の貴校のデートDV等予防講座実施状況(対象学年を問いません)

令和4年度(対象学年を問いません)	
1 実施した	2 実施していない

(2) (1)のうち、当時の高校1年生を対象としたデートDV等予防講座実施状況

令和4年度(高校1年生)	
1 実施した	2 実施していない

(3) 令和5年度のデートDV等予防講座実施状況(現在の高校2年生を対象)

令和5年度(高校2年生)		
1 実施した	2 実施する予定	3 実施予定はない

問2 授業や講演以外に、デートDVの予防に関して実施している取組はありますか(相談のため保健室等に入室した生徒への個別対応も含む)。

あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1	行政や関係団体等作成のリーフレット配付
2	行政や関係団体等作成のリーフレットを相談室に置く
3	学校の相談室等でデートDV相談できることを生徒等に周知
4	学校作成のリーフレットや副読本を生徒等に配布
5	電話相談のカード等を配布
6	教育委員会作成資料を活用(具体的に)
7	その他(具体的に)
8	特に取り組んでいることはない

(裏面につづきます。)

問3 デートDV予防教育を行うために必要な支援は何だと思えますか。あてはまる番号3つに○をつけてください。

1	講師の紹介
2	講師依頼のための予算補助
3	授業等で使用できる教材の提供
4	実施校の実績に関する情報提供
5	相談機関に関する情報提供
6	教職員の研修
7	支援等で促進されるとは思えない

問4 デートDVの予防教育を受けるのは、いつ頃が良いと思えますか。もっとも適していると思う時期に○をつけてください。

1	中学生以下
2	高校1年生
3	高校2年生
4	高校3年生
5	高校卒業後
6	必要ない

問5 その他ご意見等ありましたら、自由に記入してください。

--